

軍部 第一三三三三

臺灣總督府

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部

由是、別冊の書方を、
以て、
三ノ、
二ノ、
一ノ、

右の如く、
保甲法、
民衆教育、
警察法、
三ノ、
二ノ、
一ノ、

六月三日

（主として、
日清戦役、
三ノ、
二ノ、
一ノ、

書方、
三ノ、
二ノ、
一ノ、

0751

陸軍省



(縣治課調査掛)

0752

保甲法(民間教言察法)

全臺團練章程(自衛團規則)

臺灣舊慣調查書 第一集

保甲法 (民間警察法)

此ハ聖諭廣訓ノ一節ニシテ康熙帝力聯甲以
弭盜賊ト勅諭セラレシヲ雍正帝力敷衍解釋
セラレタル勅語ナリ一字一句研究ノ末ニ成
ル故ニ直譯体ヲ用キテ茲ニ掲出ス

徒來民ヲ安スルハ盜ヲ弭ルニ在リトス摘發ト守
禦ノ法ハ必ス率ニ先レテ之レカ備ヲ為スヘシ故
ニ緝捕スレハ賞アリ疎縱スレハ罰アリ諱盜ニ禁
アリ違限ニ條アリ而シテ最モ善キハ保甲ニ如ク
ナシ十家ヲ甲ト為シ十甲ヲ保ト為ス甲ニ長アリ
保ニ正アリ簿冊ヲ設立シテ交モ察シ互ニ警シム

0754

此レ即チ井田守望ノ遺制也ソレ故ニ聖祖仁皇帝
ノ上諭ニ曰ク保甲ヲ聯チテ以テ盜賊ヲ弭メヨト
誠ニ四海九州ヲシテ閭閻モ堵ニ安セシメ本ヲ澄
マシ源ヲ清フセント欲スルモノニシテ聖慮ハ實
ニ周切ナリトス第ダ恐ル遵行スルヲ既ニ久シク
遂ニ因循ニ至ルヲ吏ハ則チ徒ラニ戸籍ヲ替シ民
ハ則チ徒ラニ門牌ヲ置クノミ而シテ聯比糾察ノ
法ニ於テハ未ク實心奉行スルヲ見ス以テ勾引窩
藏ノ弊種々ニシテ生スルニ至ル鄰舍失事アルモ
秦越ノ租視ル如キアリ富家劫カサルレハ反テ指
レ悖出ノ當然ト為ス甚シキハ且ツ公ヲ假テ私ヲ

0755

濟シ盤詰虚名ニ籍ヲ無厭ノ苛求ヲ滋ス汎防一巡
 羅兵一ハ因テ騷擾サセ昏吏一小役人一ハ縁テ奸
 ヲ生ス保甲ノ名有テ保甲ノ實無シ保甲ノ累有テ
 保甲ノ益ナシ此レ盜賊ノ薺^{ヤク}ビ難キ所以也夫レ良
 法ノ民ニ利アルハ奉行ノ必ス其實ヲ求ムルニ在
 リ嗣後城市鄉村ニ保甲ヲ嚴行シ每知ソレブレ保
 ヲ分々毎保各各十甲ヲ統ヘ城ハ坊ヲ以テ分々郷
 ハ箇ヲ以テ別ツ排鄰比戸互相防衛シ一甲ノ中ト
 雖モ巨室大戸ナルモノハ僮一雇人一佃一小作人
 一多キハ数百ニ至ル此内良ト否トアル本戸自ラ
 責任ヲ有ス若シ一廛一舎ノ村落ニ散布スル者ハ

業有ルト業無キト或ハ良ナルト或ハ否ナルトハ
里正及ビ保正ニ於テ以テ微カニ平素ニ窺フヲ得
一出一人以テ隠ニ其行踪ヲ察スルヲ得遇々恒業
ヲ務メス羣飲シ聚博シ鬪雞シ走狗シ夜ニ集テ曉
ニ散シ乃至ハ履歷明ナラス踪跡疑ノ可キ者アラ
ハ皆立トコロニ糾察ヲ為シ暫クモ甲内ニ容ル、
ヲ許サス其ノ荒原ノ古廟鬧肆ノ叢祠ハ尤モ奸ヲ
藏シ易シ更ニ宜シク防察ニ緊ヲ加フヘシ汎地兵
丁ニ至テハ務メテ必ス晝夜ニ巡邏シ一体ニ査詰
シ端ヲ借テ事ヲ生スルナク仇ヲ挾テ害ニ陥ル、
ナリ賄賂ヲ受ケテ狗彘スルナク情面ヲ借テ姑容

0757

スルナクカヲ恊セ心ヲ同フシ輪流ニ分派セヨ則
キ盜賊ハ身ヲ容ルノ地ナク軍民ハ安靜ノ樂ヲ
享ケン查スルニ昔人禦盜ノ法ハ村ニ一樓ヲ置キ
樓ニ一鼓ヲ設ケ一家失アレハ鼓ヲ撃テ號ト為シ
群起シテ其要害ヲ守ル盜賊將タ安クニカ逃レン
謂ユル兵法ヲ保甲ノ中ニ寓スルナリ若シ夫レ江
海出沒ノ區ニシテ保甲ヲ以テ行フヘカラサル者
アラハ舟楫往來號ヲ絡子船ヲ聯子彼此互相稽査
シ位類モ亦藏匿シ難カラシメ皆實心奉行シ事ニ
先ジテ之レカ備ヲ為セ若シ視テ具文(通常一般
オサタマリ文句)ト為シ怠忽ニ從事セハ盜セラ

0758

ル、者ニ至テハ財ヲ失ヒ連坐スル者ハ累ヲ受ケ
惟クニ朕カ息盜安民ノ至意ニ背クノミナラス亦
甚ク爾等保身保家ノ良策ニ非ラサル也

0759

全臺團練章程

本章程ハ即チ臺灣舊時ニ於ケル自衛團ノ組織ニシテ清佛戰爭ノ際ナル光緒十年二月二十一日臺灣道臺ノ發布ニ係ルモノナリ一讀レテ團練其モノ、性質ヲ知リ併セテ當時ノ情況ヲ知ルニ足ルヲ以テ茲ニ其全文ヲ譯シ以テ參考ニ資ス

臺灣ハ海東ニ孤懸シ要害ニ關スル容易ナラサルヲ以テ此際別々テ海防ニ注意シ先ツ急ニ團練ノ法ヲ實行シ以テ保衛ノ道ヲ講スヘキ旨每度其筋ヨリ督促ノ次第モ有之依テ文武官及ヒ耆紳ヲ會

0760

シテ篤ト協議ヲ遂ケタル處要スルニ富者ハ資ヲ
出シ貧者ハ力ヲ出シ外侮ヲ禦キ内奸ヲ清メント
欲スルノ精神ニ外ナラズトス抑ニ臺灣ノ紳民ハ
素ト義勇ヲ以テ稱セラル此ノ時局艱難ナルニ方
テハ勿論踴躍シテ奉公ニ急ナルベキヲ信ス只
後來ノ團練ナルモノハ規則ノ布カレガルカ為メ
有名無實ト為リ流弊ノ多キヲ免レサリシモ茲ニ
議定スルモノハ之レト異ニシ即チ資産相應ニ勇
丁ヲ指出セシメテ虚糜ノ費ヲ避ケ訓練次第ニ團
ヲ成立シテ虚設ノ局ヲ置カズ勇ハ三等ニ練ハ短
長ニ分チ貧富ヲ聯テ一心ト為シ良莠互ニ利用

0761

セシメ緩急ニ應シテ増減スルトトシ臨時トモシ
常備トモスヘシ功罪ヲ分明ニシ必賞必罰ヲ期ス
是レ其方法ノ大要ナリトス斯クテ平時ハ各恒業
ニ安セシメ警アレハ相互ニ救援シ以テ二百年養
士ノ恩ヲ報スルニ在リ千家萬戸均シク宜シク尤
ヲ枕ニシテ以テ待ツ所アレ本道台守土ノ責任ヲ
擔ヒ共ニ安危ヲ俱ニス頼ル所ノモノハ官紳商民
敵愾同仇ノ心ニ在リ我カ不逮ヲ匡ケ共ニ衆志成
城ノ實效ヲ収メ藉テ廟堂綏邊攘外ノ深衷ニ副ハ
ヨ

○地ヲ量テ局ヲ設ケ帰省ノ便ヲ期スル

0762

判

公局ヲ設ケサレハ無責任トナリ局ヲ設クル多キ
ニ過クレハ冗費ヲ免レス故ニ各府縣ノ城内ニハ
一般ニ一ノ團練總局ヲ設クベシ或ハ其東西南北
中ト言ヘル如ク五團或ハ數團ニ小區分スル者ハ
各團ニ團總一名ヲ置キ總局ノ管理ヲ受クヘシ城
外ハ村落ノ遠近水陸ノ繁簡一様ナラサレハ其地
勢ト人情トノ都合ヲ見計ヒ約周圍三四拾里ヲ以
テ一分局ヲ設クヘシ粵族ノ部落ハ別ニ粵團ヲ設
クルヲ得又閩族トテモ同族集合シテ其大ナルモ
ノニハ族團ヲ分設スルヲ得只夕飛散セル小庄小

0763

族ニ於テハ各郷ノ團局ニ附屬セシメテ分設セシ
メス而レテ其数拾里ノ区域内ニ於テ富有家及ヒ
名望家ヲ官選シテ團總トナシ其才幹有リ能ク衆
ヲ服スル者ヲ團佐トナシ均シク常ニ局内ニアツ
テ事務ヲ辦セシム尤モ諛富有家事故ノ為メニ常
ニ團總事務ヲ取扱兼ヌルモノハ相當ノ代人ヲ舉
グルヲ得但シ代人ニ於テ失策アルモ富有家自身
ニ於テ其責任ヲ負フモノトシ以テ相讓ルヲ許サ
ス

○杜丁名簿ヲ調製シ查考ニ供スル事
各庄戸口ニ多寡ノ相違アルヲ以テ團總團佐ハ各

0764

庄ノ總理頭人ニ命シテ其庄内ニ於ケル戸口及壯
丁ノ数及ヒ其業務係ニ兵器ノ種類ヲ調査シ書式
ニ照シ清冊二本ヲ製シ一本ハ總局ニ送リ一本ハ
本局ニ保存セシム若シ團内ニ法ヲ犯スモノアリ
其改悛セシムベキ者アレハ即チ其姓名ノ上ニ改
ノ字ヲ記載シ以テ之ヲ別ツモノトスヌベテ團丁
ニシテ練勇義勇ニ編セラレシモノハ其由ヲ明細
ニ記載シ調査ニ便ニシ隱匿漏洩ヲ許サス清冊ノ
書式ハ別ニ之ヲ定ム

○勇ニ等級ヲ付シ統ヤテ操練ニ服スル
事

0765

従前ノ團練ハ戸ヲ按ジテ取ルトハ名クレヒ其
實代人ヲ雇ヒ来テ之レニ混ジ點呼ニ應スルナル
ヲ以テ團ハ遂ニ團ヲ成ス能ハス况ンヤ操練其季
ニ於テヤ今ソノ勇ヲ分テ義勇練勇團勇ノ三ト
ス義勇ハ團局ニ常駐シ日々操練ニ服スルモノニ
シテ一名毎ニ月俸四四八拾錢ヲ給シ練勇八十日
毎ニ團局ニ出頭シ操練ニ服スルモノニシテ毎團
貳拾錢即チ一ヶ月六拾錢ヲ給ス其練勇八名ハ義
勇一名ニ相當スルモノトス其他ハ概シテ團勇ト
為ス書生老弱孤寡ヲ取除トシ凡ソ家ニ壯丁アル
モノハ自費ヲ以テ毎月一回点呼操練ニ應スルモ

0766

ノトス若シ故ナクシテ出頭セサルモノハ團總之
ヲ上申シ相當ノ責罰ヲ加ヘ以テ抗違ヲ戒ム

○資産相應ニ勇丁ヲ義捐シ着實ヲ旨ト

スル事

従前ハ或ハ官金ヲ支出シ或ハ戸毎ニ義捐セシメ
シテアルモ皆永續シ難シ今資産ノ多寡ニヨリ捐
勇ノ等差ヲ定ムベシ即チ家資一万円ノモノハ毎
月義勇一名若クハ練勇八名ヲ指スヘシ家資一千
円ノモノハ十戸ヲ合シテ義勇一名ヲ指シ若クハ
毎戸ニ練勇一名ヲ指スルモ差支ナシ其一千円ニ
達セサルモノハ義勇ヲ指スルニ及ハサルモ練勇

0767

一名ヲ捐スヘシ家資五百円ノモノハ二家ヲ合シ
テ練勇一名ヲ捐スヘシ其五百円ニ達セサルモノ
モ義勇ヲ捐スルニ及ハス只タ杜テアルノ家ハ杜
下其レ自身ニ進テ勇ニ充ツベシ餘ハ之ニ準ス都
テ捐産ノ之ヲ抗拒シ騙瞞スルヲ許サス亦團局ノ
苛酷ニ流ル、ヲ許サス以テ公平ヲ明ニス如シ公
平ヲ失スルノ嫌アルモノハ官廳ニ申告シテ其酌
定ヲ受クヘシ

○團勇ヨリ練勇ヲ選出シ練勇ヨリ義勇
ヲ撰出セシムル事

従前ノ團冊ハ混雜ニシテ不規則ナルノ点アリ今

0768

其冊式ヲ定ム即チ十六歳以上四十歳以下ヲ壯丁
トシ統テ團勇ニ編入スヘシ團總ハ先ツ應指ノ
各戸ヲ勸誘シテ出頭ヲ促シ指勇ノ數ヲ定メシメ
而ル上各指戸ヲシテ其附近各庄ノ團勇中ヨリ練
勇ヲ選出セシメ而ル上其練勇中ヨリ義勇ヲ選出
セシム其俸給ハ各指戸ノ負擔トス此時別ニ名簿
ヲ造リ團局ニ届出ソベシ如シ或ハ指戸ニ於テ人
選ニ苦ミ或ハ其負數ニ達セサルトキハ團局ニ於
テ代選補充スルヲアルベシ凡ソ操練派出席ノ事
ヲ行フニ方テハ豫テ局ニ於テ明幹ナル義勇ヲ選
チ百長トシ練勇ヲ分率セシメ又練勇中ヨリ什長

0769

ヲ選テ團勇ヲ徴率セシム斯クテ其數多キヲ加
ルニ隨テ之ニ準シテ規律ヲ立テ以テ紛擾ナク其
責任ヲ分テシム百長ノ指揮操練スル當日ハ別ニ
貳拾錢ヲ局ヨリ加給シ臨時能ク戦ヒシモノハ一
ケ月毎ニ六拾錢ヲ加給ス付長ノ指揮操練スル當
日ハ同シク拾錢ヲ加給シ臨時能ク戦ヒシモノハ
貳拾錢ヲ加給ス如シ練勇操練當日ニ期ヲ誤ルモ
ノアレハ指戸ヲ罰スベク又練勇ノ團務ニ依リ事
ヲ醸スモノアレハ其頭領ヲ併セテ罰ス

○團練ニ用ユル軍裝ハ各自ニ製備スヘ

キ事

0770

義勇ノ備フヘキ旆褂練勇ノ備フヘキ旆袂團勇ノ
備フヘキ旆補及ヒ團練ノ備フヘキ旗幟ハ均シク
捐戸ノ自費ニテ製造スヘシ臺灣徒來聯團郷勇ノ
募アリ之ニ備付ケタル兵器ハ未タ曾テ之ヲ收回
セサルヲ以テ今尚ホ各家ニ貯藏スルモノモ自ラ
多カルベシ此次團練ヲ組織スルニ當リ各勇自ラ
銃砲刀矛ヲ携帶スベシ或ハ兵器種類ニ因テ隊伍
ヲ編成シ或ハ軍器ノ過不足ニ因リ彼此取替エ之
ヲ用フルヲ適宜ナルベシ若シ義勇又ハ練勇ニシ
テ本人ノ始ヨリ軍器ヲ所有セサル者アレハ亦タ
捐勇ノ家ヨリ備給スヘシ只タ火薬ハ團總等ヨリ

0771

銃砲年名簿ヲ製シ其必要高ヲ記入シ軍裝官局ニ
就テ其下渡ヲ稟請スヘシ

○團練局ニ駐在シテ執務スル者ハ或ル
負數ノ練勇ヲ捐出スル者ト同様ニ視
為ス事

0772

富者ハ勇ヲ捐シ資ヲ出スノミナラズ勉強シテ團
練事務ニ鞅掌スルモノナレハ之レカ區別ヲ為サ
、レハ未ダ偏枯ノ法タルヲ免レサルナリ故ニ凡
ソ捐勇スヘキ富紳ニシテ局内ニ常駐シ團總ノ任ニ當
ル者ハ練勇十五名ノ捐出ニ相當スル者ト視為シ
團佐ノ任ニ當ル者ハ練勇十名ノ捐出ニ相當スル
七

者ト視為ス我ハ捐勇ノ資力ナキモ其人公正ニシ
テ能ク公事ヲ辨シ團總團佐ノ任ニ當ル者ハ亦練
勇捐出相當ノ金額ヲ提給シテ之レカ手當ト為ス
團局ノ總佐負數ニ至テハ大局ハ五名ニ過クルヲ
得ス中小局ハ三名ニ過クルヲ得ス此制限ヲ立テ
以テ濟シ消シノ弊ヲ防クヘシ

○各局ノ費用ハ練勇捐資中ヨリ割出ス
事

局ヲ設クル上ハ經費ヲ要スル必然ナリ既ニ各戸
ノ勇ヲ捐セル其上ニ資ヲ捐セルムルハ困難ナル
ヘシ依テ各勇ノ衣履兵器ヲ捐戸ノ自費備製トス

0773

ルモ尚本局内執務者ノ食費及ヒ練勇ノ手當記號
印刷茶烟紙料等ノ諸費用ヲ要スルナレハ其支辨
方法ハ捐勇ノ資ノ幾部分ヲ裁ル程度ニ因リ流用
スルトトスヘシ譬ハ捐勇一百名アリトスルニ
其内一名ノ義勇ヲ取ラサルヘカラス一
百長トシ
テ一一名ノ義勇ハ八名ノ練勇ニ相當スルモノナ
ルヲ以テ既ニ百名中ノ八名ハ之レカ為メニ減額
サレタル割合ナリ此外更ニ二十二名ノ缺員ヲ作
ルモノトセハ實際練勇ノ數ハ七十名ナリトス右
二十二名分ノ捐額十三山二十錢ニシテ之ヲ局ノ
經費ニ充ツルモノトス其ノ百名ヲ超過シ或ハ不

0774

是ナル場合ニ於テモ此比例ニ準シテ交出シ局費
ノ過不足ハ時々申告シテ指揮ヲ請フヘシ其他局
内ノ出納ハ毎月総局ニ報告シ総局ニ於テ取纏メ
保存スルモノトス以テ誠實ヲ昭ニスヘシ

○操練ノ日期ハ時宜ニ隨ヒ加減スル事

教ヘスシテ戦ヲ是ヲ棄民ト謂フ訓練セシ團ニシ
テ始メテ勇ナリト知ルヘシ義勇ハ局ニ常住シテ
毎日操練セシメ練勇ハ十日毎ニ五ノ日ニ操練セ
シメ團勇ハ月ノ十五日ニ操練セシム其ノ素習ノ
銃砲刀矛ヲ練リ教フルニ盡サ、ル可ラサル忠孝
節義ヲ以テス修同袍ノ會ニ於テ仍木型方訓俗ノ

0775

規ヲ寓スヘキナリ附近所在ノ文武官吏ハ期日ニ
登局シ其操練ヲ檢閲シ兼テ取締ヲ為スヘシ凡ソ
義勇ハ大局三十名ニ過リルヲ得ス中局二十名ヲ
過ルヲ得ス小局十名ヲ過リルヲ得ス義勇ハ其
少キヲ嫌ハス以テ捐資ヲ節約スヘシ練勇ハ成ル
ヘク其多キヲ貴ブ以テ衆志ヲ聯結スヘキナリ然
レモ練勇練期ノ加減ハ捐資ノ輕重ニ關係アルヲ
以テ軍情ノ緩急ヲ視テ變通スヘシ現ニ定ムル所
ニテハ毎月操練三四ニシテ一名ノ費銀六十錢ニ
過キサルモ若シ軍情緊急ニシテ不時ノ調用ヲ要
スル時ハ毎月五六回若クハ十數回ニ及ハサルベ

0776

カラズ練期ノ増加ト共ニ捐資モ亦増加セサル可
カラザルモノナレハ若シ軍情稍緩ナル時ハ練期
及捐資ヲ適減スベシ而シテ事平ケハ練ヲ撤シ只
々多少ノ義勇ヲ酌留シテ永ク地方ヲ保護シ盜匪
ヲ巡緝スルノ用ニ供スベシ

○衣旗ヲ色介ケニシテ辨別シ易カラシ

ムル事

衣旗混雜ナレハ見分ケヲ附ケ難令ヲ嚴肅ニシ難
キモノナレハ其旗色ハ城内ハ中央ナルヲ以テ黄
色ヲ用ヒ東郷ハ藍色南郷ハ紅色西郷ハ白色北郷
ハ黒色ヲ用フヘキナリ城内ノ東南西北中ノ五級

0777

ニ分チアル者ハ中段ヲ全黄色トシ其他ハ黄地ト
 シテ東段ハ藍南段ハ紅西段ハ白北段ハ黒ノ縁取
 トスヘシ百長ハ大尖角旗ヲ帯ヒ旗面ニ某縣某郷
 某局某隊某勇ト書シ付長ハ小尖角旗ヲ帯ヒ旗面
 ニ某團局某隊某幾牌練勇ト書スヘシ各勇ニ在テ
 ハ其號補ニ大字ヲ以テ印刷セル義勇練勇若クハ
 團勇ノ記號札ヲ縫着ケ其札ノ上段及ヒ両旁ノ空
 段ニハ兵式ニ照シ某縣郷某哨隊某姓名ナルヲ記
 入シ以テ稽查ニ便ニスヘシ其記號札ハ各總局ニ
 於テ印刷シ名簿ヲ按シテ記入シ以テ一定ヲ期ス
 下シ各勇ノ號褂號袂モ亦各旗色ニ照シ區別シテ

0778

之ヲ製シ以テ曉リ易カラシムヘシ

○奮勇ノ志願ヲ聽届ケ將材ノ選ニ備フ
ル事

0779

民團ハ身家ヲ自衛スル迄ニシテ元來出戰ヲ命ス
ヘキモノニ非ス城ニ在リテハ城ヲ守リ郷ニ在リ
テハカヲ衛ル此レ民團ノ本分ナリトス而ルニ若
シ武藝出色ニシテ瞻略人ニ過キ自ラ戰場ニ臨マ
ント欲スルモノハ其志願ヲ聽届クヘシ此時團總
ヨリ特ニ一冊ヲ調製シ縣ニ呈シテ點驗ヲ請ヒ縣
ヨリ之ヲ附近ノ各頭領管宦武官ニ移文シ其能ク
規條ニ服スルヤ否ノ試驗ヲ經テ特ニ隊伍ニ列シ

官兵ニ從テ臨戦セシムルヲ得ズ但シ陣法ヲ乱
スノ恐アルヲ以テ先鋒ニ當ルヲ得ス若シ隊伍整
齊ニシテ其進退規律ニ合スル者ニハ破格ノ保獎
ヲ為シテ或ハ勇管ノ員辨ニ提補シ或ハ兵管ノ員
缺ニ保補スルヲアルベシ

○切ヲ計リ賞ヲ定メ以テ鼓勵ヲ昭ニス
ル事

0780

信賞必罰ハ行軍ノ首令ナリ水陸團練ノ既ニ臨戦
セル以上ハ即チ行軍ト異ナルナシトス依テ官兵
ニ從ヒ臨戦シテ外寇ノ杉板船一隻ヲ打翻シ人ト
船トヲ並ビ没シ若シハ人ト船トヲ並ビ獲ル者ニ

ハ銀一千円ヲ敵ノ運送汽船一隻ヲ打破セル者ニ
ハ銀一萬円ヲ敵ノ軍艦一隻ヲ打破スル者ニハ五
萬円ヲ敵ノ鉄甲艦一隻ヲ打破スル者ニハ銀十萬
円ヲ賞與ス獲タル所ノ軍裝銃砲ハ官ニ上納セシ
メ其他ノ船隻貨物ハ其盡カシタル者ニ賞與スヘ
シ若シ外冠一名ヲ斬擒スル者ニハ銀一百円ヲ外
冠ノ小頭目一名ヲ斬擒スル者ニハ二百円ヲ二等
冠目一名ヲ斬擒スル者ニハ銀五百円ヲ一等冠目
一名ヲ斬擒スル者ニハ銀一千円ヲ大冠目ヲ斬擒
スル者ニ銀一萬円ヲ賞與スベシ以上ノ賞與ハ道
台ノ庫中ヨリ支出スルモノトシ即日現銀ヲ交付

0781

スベシ

○内奸ヲ偵捕シテ以テ應援ヲ断ツ事

外ヲ禦クニハ必ス先ツ内ヲ清ムヘシ外寇初メテ
来ルトモ内奸ノ通スルモノ無ケレハ水道沙線及
ヒ我軍ノ虚实ヲ知ル能ハス且ツ水米食物ヲ辨ス
ルニ方法ナクテ斯クテ日久シケレハ自ラ坐困ノ勢
ニ陥リ攻メズトモ彼レ自ラ敗ルナルヘシ依テ敵
寇境上ニ臨メハ沿海ノ商船澳船及ヒ筏ヲ悉ク海
口内ニ收泊セシムヘシ何船何人ニ論ナク私カニ
出口スルヲ准サス若シ外寇ニ勾通シ軍情ヲ漏洩
シ食物ヲ供給シ利ヲ貪テ水先案内ヲ為シ又ハ私

十二

0782

ニ船筏ニ駕シ出口スル者ハ漢網貨物ノ有無ニ拘
ラス圍防軍民等ノ捕獲護送ニ因リ立トコロニ斬
ニ處スベシ而シテ内奸一名ヲ獲ル毎ニ銀一百兩
ヲ賞與シ其船筏ヲモ併セ給ス又船ハ何人ノ所有
ニ係リ及ビ何圍ノ何口ヨリ出海セシヤヲ吟味シ
一體ニ處分シテ容赦セサルベシ

○罪ハ切ヲ以テ贖ヲ准ス事

愚民ノ知ラズシテ法ヲ犯スハ本ト哀矜スヘキナ
リ罪ヲ贖ハシムルニハ須ク切ヲ立テシメ以テ平
允ノ意ヲ昭ニスヘシ圍冊登名ノ上改字ノ記載
アル者ニシテ仍ホ究治サルヘキ命案ノ殺人正犯

0783

1505

ヲ除キ其餘ノ連累者及ヒ曾テ搶盜窩匪ノ惡ノ各
業ヲ犯シ現ニ刑奉被告ナルモ逃走中ニ屬スル者
ニシテ自首シテ切ヲ立テ罪ヲ贖ハント願フモノ
ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ因テ選舉スヘキ郷董族
董連名ノ保証書ヲ得ベシ而ル後チ原冊登名ノ上
改字ノ上ニ更ニ投字ヲ記載シ収メテ練勇トナシ
以テ立切ヲ期セシムヘシ若シ平日能ク本地土匪
ノ兇首盜首ヲ細獻シ及ビ警ニ臨テ能ク外寇一名
擒斬スル者ニハ共ニ立切ト算シ直チニ罪案消滅
ト看做シ原告ノ翻控ヲ許サス又能ク多数ノ犯者
ヲ擊獲シタル者ニハ破格ノ獎賞ヲ待フヘシ但シ

0784

從來ヨリ賍物追求ノ訴ヲ受クルモノナル片ハ郷
董族董ヲシテ斟酌ノ上之ヲ賠償セシメ以テ被害
者ニ満足ヲ興ヘ兼テ自新ノ路ヲ廣メシムヘレ目
下郷董族董ハ未撰定中ナルヲ以テ暫ク現設ノ團
總團佐ヨリ代弁セシメ撤練ノ後ナル片ハ談總佐
中ノ賢能ナルモノヲ撰テ郷董族董ニ諭サシメ以
テ善後ノ謀ヲ為サシムヤシ

○團練負ノ訴訟ヲ嚴禁スル事

従前ノ團練ハ往々公ヲ藉リ私ヲ酬ヒ械鬥搶奪ノ
谷重業ヲ醸成スルアリ流弊甚ク多シトス此次ハ
團總團佐ノ責任トシテ之レカ取締ニ當ラシメ如

0785

シ團ヲ藉リ衆ヲ糾シテ械鬥、搶奪スル者アレハ軍
法ニ照シテ處分スベシ若シ團總團佐ノ取締嚴重
ナラス事前ニ於テ首告セス若クハ主縦包庇等ノ
情弊アレハ其罪ヲ團總團佐ニ問フヘシ凡ソ團内
ニ於ケル民事上ノ小事件ニシテ未タ官ニ訴ヘサレ
者ハ團總團佐ヨリ公平ニ調停スルヲ准スモ其武
断ヲ許サス若シ既ニ官ニ訴ヘ訴訟ノ成立セルモ
ノハ團總團佐ニ於テ断シテ干預シ幫助スルヲ許
サス違ノ者ハ斥革ヲ行フベシ

○捐資ノ額ニ對スル獎勵ノ道ヲ立テ士
氣ヲ振作スル事

0786

團練ノ設ケタル原ト衛民ノ為ニシテ好義急公ハ
獎勵ニ非ラサレハ勸誘ノ目的ヲ達シ難シ捐勇ハ
即チ捐資ノ多寡ニ屬スルモノナレハ標準ヲ取ル
ニ易シ依テ捐勇資三百兩以上ナルモノハ縣ノ匾
額ヲ五百兩以上ナルモノハ道ト府トノ匾額ヲ給
シ一千兩以上ナルモノハ申請シテ總督ト巡撫ト
ノ匾額ヲ給スベシ台地文風日ニ盛ナレバ負數ニ
定限アルヲ以テ取進ヲ得ルノ士ハ多キナシ實ニ
遺憾ノ事タリ就テハ此ノ成績ニ因リ捐數ノ額面
ニ因リ逐一上奏シテ文武學負ノ制限ヲ擴張スル
トヨ詳請スヘシ仍ホ團練開弁ノ日ヨリ起算シ滿

0787

一年ヲ経過シタル中ハ函籍(建福)ト粵籍(東廣)
 トニ區別シテ一回ノ大演習ヲ行フヘシ其團練事
 務ニ最モ能ク盡カシタルノ紳民ニハ充分ノ保將大
 アランヲ詳請シ以テ勞績ヲ彰カニスベシ
 以上各條ハ團練ノ大要トス若シ仍ホ斐通若ク
 ハ未タ盡サ、ル事宜アレハ各團紳ニ於テ隨時
 總局ニ商明シテ奉行スヘシ漁團及水勇ヲ選募
 スル方法ハ仍ホ別紙ノ章程ニ照シテ弁理スヘ
 シ

(此章程原文ハ故紙中ヨリ搜出シタルモ
 ノニテ本文中ニ別紙ノ章程或ハ別ニ定

0788

ムル所ノ書式ナド、言ハルモ其附属書
 類ヲ未タ發見セズ各地諸官他日如シ發
 見セララル、アハ請ノ幸ニ諸ヲ本調
 査係ニ致セ
 譯者
 谷信近
 藤田捨次郎
 附記

0789